

## ドイツ人とビール

「.....ビールには成分として大麦とホップと水だけが使用されねばならない.....」

ドイツの「ビール純粋令」をテーマにする時に、バイエルン公国が1516年4月23日に制定した条例に入っているこの文を指すことが多いです。「ビール純粋令」は現在においてもドイツビールを宣伝する重要な手段であり、ドイツビールが世界中で人気がある理由としてよく挙げられます。しかし、現在、「ビール純粋令」は、守らなければならない他の法令と同様に捉えるよりは、ビール醸造の理想として理解したほうが良いです。それにもかかわらず、純粋令を守らなければ「純粋令に従って醸造した」というラベルは使用できないので、ドイツにあるビール醸造所の殆どは純粋令を守っています。現在の純粋令によると、ビールには成分としてホップと酵母と麦芽と水だけを使用できます。1516年の条例にある「大麦」は大麦などの種子を発芽させた「麦芽」に変更され、酵母は16世紀の後半に追加されました。



ドイツ人は、ドイツビールを他の国々のビールと比較する時、誇りを持って「ビール純粋令」を挙げます。このことからドイツにおけるビールの重要さとアイデンティティー形成における役割がすぐにわかります。長期的にドイツに滞在した人も、旅行などで短期的にドイツに滞在した人も、この印象について共感できると思います。

まずは、様々な数字を見ておきましょう！最近ではビールを含む酒類の消費が減少する傾向が見られますが、ドイツでは、年間ビールを80億リットルを飲んでいますが、これは、一人当たり100リットルのビールを消費していることを意味しています。日本では、ドイツ消

費量の半分以下の一人当たり40リットルのビールを飲んでいますが、消費の減少傾向があっ

### 白（小麦）ビール



ても、近年、ビール醸造所の数がドイツでかなり増えてきました。これは、主に小規模のクラフトビールの醸造所が増加しているためで、同じ現象は様々な国で見られます。現在のドイツには、約8000のビール（ブランド）を生産する約1500のビール醸造所が存在します。多くの醸造所は南ドイツにあります。全国で一番人気のあるビール類はピルスナーと白（小麦）ビールですが、他にも一定の地域や全国的に非常に人気のあるビール類

もあります。黒ビール、ヘレス、アルトビール、ケルシュ、メルツェンビールなどは良い例です。1040年に創立されたバイエルン州にあるヴァエンシュテファン醸造所はドイツ、また世界中で一番古いビール醸造所として知られていますが、500～1000年の歴史がある醸造所は他にも多数あります。つまり、ビールの醸造とビールを飲むことはドイツにおいて非常に長い伝統があります。

さて、ドイツ人の愛されるビールとの日常生活はどんな感じでしょうか。「ドイツ」と

「ビール」と聞くと、多くの外国人はドイツ国内外に非常に人気のあるオクトーバーフェストや他のビール祭りを連想します。しかし実は、ビール祭りはドイツ人がビールを飲む機会のほんの一部分に過ぎません。日本と同じように、色々なお祝いの時や、レストランや家でご飯を食べる時などにビールを飲む人も多いです。夜にビールを飲む人が一番多く、

### ピルスナービールの瓶によく見られる形



「Feierabendbier」（退勤のビール）を飲むことは多くの人に

とって1日の日課です。朝や昼にビールを飲む人もいますが、まだ車を運転する必要があ

るかどうかなどの状況によります。昼の休憩に同僚と一緒にビールを一杯飲むことが認められている、あるいは一緒に飲むことが望ましい会社もありますが、認められているかどうかは主に職種や会社の規定や職場の雰囲気などによります。特にバイエルン州において、ビールが主食であるという冗談もよく聞かれます。この発言が正しいとは言えませんが、歴史を見ると、ビールの中に現在より栄養素が入っていた時期もあり、その時に人々の栄養に一定の役割を果たしていたことが推測できます。時々、ドイツの有名な政治家の発言を思い出します。その政治家によると、選挙戦イベントなどでは国民と対面しながら、酔っ払わないことは非常に難しいというのです。なぜなら、国民と一緒にビールを飲むことを断ると失礼だととらえてしまう人も少なくないからです。これは、ビールの懇親を深める手段としての役割を示しています。

基本的には、ドイツでビールを飲むことを「**Gemütlichkeit**」（発音：ゲミュートリッヒカイト）という概念・コンセプトと繋げることが多いです。「**Gemütlichkeit**」は翻訳しにくいドイツ語の表現であり、日本語の「居心地よさ」という表現は意味的に一番近いかもしれませんが、他の翻訳しにくい表現と同じように、その表現に関する気持ちや連想は全く一緒ではありません。ドイツのウィキペディアには



「**Gemütlichkeit**」という表現の良い定義が書いてあると思います。定義によると、温かくて優しい雰囲気、また快感のある主観的に感じられる心境を意味しています。さらに、落ち着き、安心感、気軽さなども重要な要素です。「**Gemütlichkeit**」は喧嘩や衝突を起こす余地がなく、きつい仕事とも相対立し、忙しさを安らぎに替えます。多くのドイツ人にとって、ビールは「**Gemütlichkeit**」の気分を高めることができますが、逆にビールを十分に楽

しむために、既にある居心地よい環境が必要です。実は、日本人で「Gemütlichkeit」という表現を聞いたことがあるか若しくは歌ったことがある人は多いのです。ドイツの一番有名な座敷歌（酒歌）「Ein Prosit der Gemütlichkeit」は「Gemütlichkeit」という表現を使用し、日本で開催されるドイツのビール祭りでもライブバンドなどのサポートで常に歌われています。非常に簡単な歌詞は次の通りです。

アイン プロージット      アイン プロージット      デア  
*Ein Prosit* ,      *ein Prosit*      *der*

ゲミュートリッヒカイト  
*Gemütlichkeit* ,

アイン プロージット      アイン プロージット      デア  
*Ein Prosit* ,      *ein Prosit*      *der*

ゲミュートリッヒカイト  
*Gemütlichkeit* ,

(日本語訳：乾杯 乾杯 居心地よい気分で、乾杯 乾杯 居心地よい気分で)



歌詞を読むとよく分かるように、乾杯するあるいは飲むこと自体と、「Gemütlichkeit」の間に直接の関係があります。「der Gemütlichkeit」という部分は「皆が集

まったこの時に」とも意味的に翻訳できると思います。実際に、この歌を、普段、ビールを飲むときに歌います。もちろん、他の飲み物を飲む人も歌っても良いですが、ビールを連想することが多いです。

ちなみに、ビールはドイツで安く売られており、特に日本のビールとは、値段の差が大きいです。ドイツには、ビールが水より安いという話を聞いたことがある人もいらっしゃると思います。非常に安いビールをあまり安い水と比べたら、それは正しいです。極端な場合は、1リットル当たり約60円のビールもありますが、60円のビールが本当に美味し

#### よくあるビール瓶の箱（30本）



いかどうかということはまた別の話でしょう。美味しくて質の高いビールは、もちろん、もっと高いですが、日本と比べると、それでもまだかなり安いです。他の相違点はビールが入っている器です。レストラン

などでは、日本と同じように主に生ビールか瓶ビールを飲みますが、スーパーや飲料店などでも主に瓶ビールが売られています。缶ビールも少しは売っていますが、味などについてのイメージが悪いので、缶ビールを避ける人が多いです。

ビールは現在のドイツにも重要な役割を果たしています。ビール醸造の伝統とビール消費はドイツ人のアイデンティティーの一部だけではなく、居心地よい雰囲気や懇親を深めるなどの社会的な機能も有しています。これは酒類に共通する機能だとも言えますが、ドイツ人の意識において懇親や「Gemütlichkeit」を特にビールと関連させることが多いです。



しかし、今一度強調したいのは、「Gemütlichkeit」は主観的な気持である、ということで、人によってビールではなく、例えば、お水などでも作れる気持です。健康的な生活を目指す人の増加

や、好みの変化によって、近年、ビールの消費が少し減ってきましたが、これからもビールがドイツ社会の重要な一部であることは変わらないと思います。最近できた多くのクラ

フトビールの醸造所は様々な好みや要望に対応しており、今後はこれまで以上に多種多様なビール風景が期待できます。この発展を考えると、「ビール純粹令」がこれからもずっと支配的な地位を保てるということは確実ではありませんが、そのシフトにより状況が悪くなるわけでもありません。